

FINANCIAL HISTORY

2009・BLOCKCHAIN・DECENTRALIZATION

ビットコイン

リーマン・ショックの灰の中から、中央管理者を持たない
新しい「お金」の実験が静かに始まった。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

サトシ・ナカモトの論文とジェネシスブロック

2008年10月31日、「サトシ・ナカモト」を名乗る匿名の人物がメーリングリストに一本の論文を投稿した。「Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System」。わずか9ページの論文が、貨幣の歴史を変えることになる。

2009年1月3日、最初のブロック（ジェネシスブロック）が生成された。ブロックチェーンという分散型の台帳技術によって、中央管理者なしに価値の移転を可能にする実験が始まった。

初期のビットコインにはほとんど価値がなかった。2010年5月、プログラマーのラズロ・ハニエツが10,000BTCでピザ2枚を購入した。これが記録に残る最初のビットコイン決済である。

THE CAUSE

なぜビットコインは生まれたか

リーマン・ショックは、中央銀行と金融機関への信頼を根底から揺るがした。政府は「大きすぎて潰せない」銀行を救済し、中央銀行は前例のない規模で紙幣を刷った。

ビットコインは、この構造への根本的なアンチテーゼとして設計された。

- 発行上限 — 2,100万BTCという上限が設定され、誰にも変更できない。インフレ政策への抵抗
- 分散型 — 中央管理者がいない。ネットワーク参加者全員が台帳のコピーを持つ
- 検閲耐性 — 特定の政府や機関が取引を止めることができない
- 透明性 — すべての取引はブロックチェーン上に記録され、誰でも検証できる

技術的には、暗号学とP2Pネットワークの組み合わせだった。「ビザンチン将軍問題」と呼ばれる分散システムの古典的課題を、プルーフ・オブ・ワーク（PoW）というメカニズムで解決した。

WHAT CHANGED

「お金に中央管理者は必要か」という問い

ビットコインが提起した問いは、単なる技術の話にとどまらない。「お金とは何か」「誰がお金を管理すべきか」という根本的な問いだ。

人類の貨幣史において、お金は常に権力と結びついてきた。リディアの硬貨、ローマの金貨、各国の中央銀行。権力がお金の信用を保証してきた。ビットコインは、この数千年の前提に初めて挑戦した。

結果として、ブロックチェーン技術は暗号通貨の枠を超えて広がりつつある。

- DeFi (分散型金融) — 銀行なしで貸借・取引を行うプロトコル
- NFT — デジタルデータに「唯一性」を付与する技術
- CBDC (中央銀行デジタル通貨) — 皮肉にも、中央銀行自身がデジタル通貨の研究を進めている

FOR INVESTORS

デジタルゴールドか、投機的バブルか

ビットコインの評価は、今も大きく分かれている。

「デジタルゴールド」と呼ぶ者は、発行上限と分散性がインフレヘッジとして機能すると主張する。「チューリップ・バブルの再来」と呼ぶ者は、内在的価値がないと指摘する。

投資家にとって重要なのは、ビットコインが「正しいか間違いか」ではなく、通貨の歴史における構造的な転換点を示している可能性があることだ。金本位制の崩壊、変動相場制への移行。お金の形態は時代とともに変化してきた。

ビットコインが最終的にどうなるかは分からない。しかし「お金の中央管理者は本当に必要なのか」という問いは、もう取り消すことができない。

KEY TERMS

関連用語

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。